

大阪府に大きな被害をもたらした過去の気象事例（雪） 「平成6年（1994年）2月11日～12日の大雪」＜南岸低気圧＞

大雪による交通障害が多数発生。転倒や交通事故により負傷者多数。

【概況】

平成6年2月11日から12日にかけて、東シナ海に発生した低気圧が発達しながら日本の南岸を通過した。このため近畿地方では、大阪府や兵庫県などで11日夜遅くから12日昼前にかけて大雪となった。

大阪府と兵庫県の気象官署における12日の「降雪の深さ日合計」は、大阪で9センチ（極値順位4位、統計期間：昭和28年1月～）、姫路で16センチ（極値順位2位、統計期間：昭和28年1月～平成15年2月）となった。

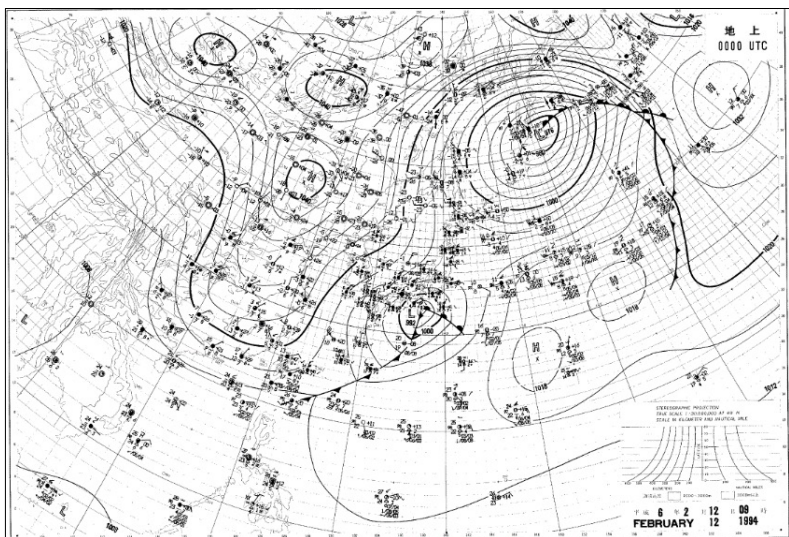
この大雪により、12日から13日にかけて大阪府では高速道路の通行止め、新幹線やJR在来線、私鉄などに徐行運転や遅れが発生し、大阪空港でも多数の欠航が発生した。また、歩行者の転倒による負傷や交通事故も多数発生した。
(被害状況：当時の新聞記事等から収集したものです。)

気象官署の極値更新など (平成6年2月14日)

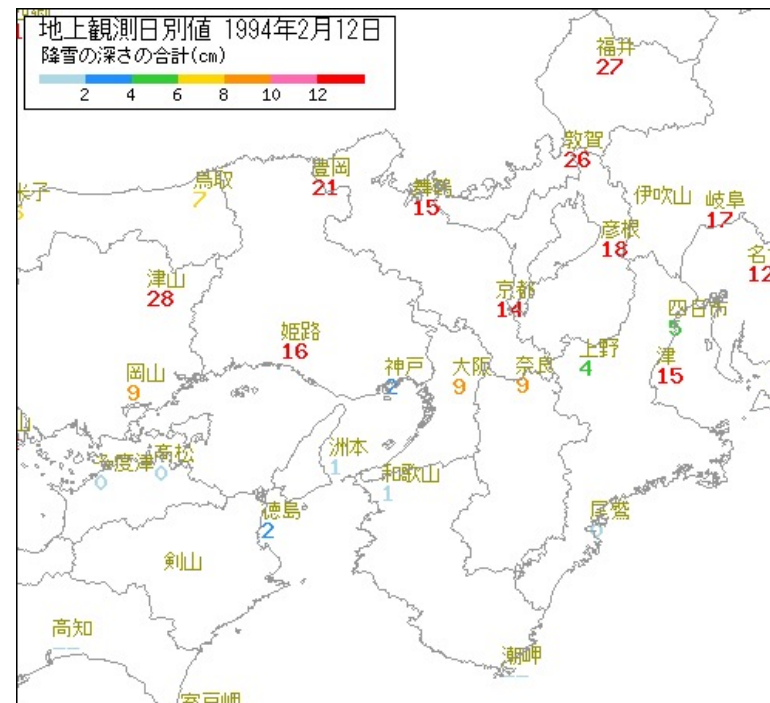
2月12日の大阪の「積雪差日合計」は9センチで極値順位4位、月最深積雪も9センチで極値順位10位であった。

この「降雪の深さ日合計が9センチで極値順位4位」は突出したものではないが、統計は1953年1月から開始しており、極値順位の2位、3位の事例は半世紀以上前であり、かつ平成以降では最も多い降雪であった。（極値順位1位は1984年1月31日の18センチ）

※極値順位の統計は、令和4年1月18日現在です。



地上天気図
(平成6年2月12日09時)



降雪の深さ日合計
(平成6年2月12日)